

中晩柑類で生産量第1位、香りと味わいが自慢！「伊予柑」^{いよかん}



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月上旬から3月下旬まで（2月上旬以降が特に食べ頃です）
特長	爽やかな香りとジューシーな味わいで、体がビタミンCと水分を求めのお風呂あがりやスポーツ後に一層美味しく召し上がれます。
備考	伊予柑には、最初に山口県で実生 ^{みしよう} として発見された「普通伊予柑 ^{ふつういよかん} 」、愛媛県で枝変わりによる進化を遂げた「宮内伊予柑 ^{みやうちいよかん} 」、「大谷伊予柑 ^{おおたにいよかん} 」、「勝山伊予柑 ^{かつやまいよかん} 」などの品種があり、愛媛県の伊予柑はほとんどが「宮内伊予柑」です。愛媛県は日本一の伊予柑の産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

- 「普通伊予柑」は、1886年に山口県東分村（現：萩市）の中村正路氏の園地で発見された偶発実生です。
- 「宮内伊予柑」は、1955年に愛媛県松山市の宮内義正氏の園地で発見された「普通伊予柑」の枝変わり品種です。
- 「大谷伊予柑」は、1972年に愛媛県吉田町（現：宇和島市）の大谷政幸氏の園地で発見された「宮内伊予柑」の枝変わり品種です。
- 「勝山伊予柑」は、1976年に愛媛県松山市の樋口光雄氏の園地で発見された「宮内伊予柑」の枝変わり品種です。